



# OCFC NEWS

2001年12月25日 クリスマス特大号

Vol. 9

## 大川こども & 内科クリニック

### 年末年始の診療

2001年、21世紀最初の年は如何でしたか。OCFCも2年目で法人化され皆様に適切な医療をサービスするよう頑張っております。患者さんの数も増加し、1日100人を超える日も珍しくなくなりました。どんなに患者さんが増えても高品質な、間違いのない医療の提供を心がけております。何かお気付きの点がありましたら遠慮なくお申し出下さい。

年末年始及び3月までの休日診療の予定ができましたのでお知らせいたします。年末は28日まで、年始は4日より通常の診療をおこないます。12月29日より1月3日までは通常の診療はお休みとなりますが、急患の方は下記の時間帯に診療致します。なおこの期間は電話予約機でのご予約はできませんのでご了承下さい。また2月・3月の休日診療についてもあわせてお知らせします。

	12月29日	30日	31日	1月1日	2日	3日	13日	2月3日	17日	3月3日	21日
午前	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
午後	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×

午前は9時より診療を開始します。午後は3時までです。

12月31日に院長は蒲田休日診療所の担当医として朝9:00より夕方5:00まで診療致します。

### 矢田医科歯科大学名誉教授来院

12月8日に院長の恩師である矢田純一医科歯科大学名誉教授(実践女子大学教授)が来院されました。先生は免疫学を専門とされ、現在日本で活躍しているほとんどの免疫学研究者に直接あるいは著作を通じて影響を与えた方です。一般向けの本としては岩波新書アレルギーの話などがあります。



▲矢田医科歯科大学名誉教授

### スギ花粉症の季節到来 — 先手必勝の備えあり —

年が明けるとそろそろ花粉症の季節となります。2月からは本格的にスギ花粉の猛攻が始まりますから1月中旬からの備えが必要となります。今年も先手必勝でいきましょう。標準的な治療は1月中旬からの経口抗アレルギー薬による予防、および予

防的点鼻・点眼剤の使用や花粉到来期の抗ヒスタミン薬の経口、ステロイド点鼻・点眼剤の使用となります。抗アレルギー薬を適切に使用すると花粉症の発作を経験しないで過ごせることもできます。1月中旬からの備えをお忘れなく。

# OCFC INFORMATION

## お母さんの看護婦日記をつけよう

OCFC では発熱を訴えて来院される患者さんに対して看護婦が体温表を作成するシステムをとっています。この体温表をお母さんの看護婦日記とよんでいます。これは子供にとって一番の看護婦さんはお母さんであるからです。子供にとって身近で何時でも愛情をそそいでいるお母さんに優る看護婦さんはいません。お母さんどうぞ病気のときはこの日記を書いてください。日記には体温表のほか、症状や治療経過を書けるようにしてあります。記入方法がわからないときは看護婦に聞いてください。この日記をみますと重症度の把握や検査のタイミング、治療の選択・入院の時期の決定が誤りなく行なえることとなります。

同じ発熱でも、高熱が続いているのか(稽留熱)、1日で2度以上の変化があるのか(弛張熱)で考える病気が違います。前者では突発疹などのウイルス性疾患も考えられますし、後者では細菌による重い敗血症の場合もあります。若年性関節リュウマチや稀ですが癌の場合も後者であることがあります。2峰性の発熱では麻疹やインフルエンザを疑うこともできます。また熱の経過と抗生剤の関係を探れば治療に対する評価も容易です。子供の発熱は印象が強いので長く発熱が続いているように思えても、それ程長く続いていないこともあります。これらの判断は熱型表をつけてはじめ判ることができます。医学的判断には客観的な事実が必要です。我が子に熱があつて心配でしょうが、どうか正確にお母さんの看護婦日記をつけて下さい。お願い致します。それが不必要な医療を受けずに、必要な検査と適切な治療だけをうけるポイントです。

## インフルエンザ対策

インフルエンザに対する一番の対策はインフルエンザワクチンです。OCFCでの予防接種者は12月初旬には1200名を越えております。今年は接種部位の腫脹を訴える患者さんが多く、1%を超えていますが、報告の対象となる肘を越える腫脹はお1人のみで、昨年と変わらず安全に行なえております。局所の腫脹・発熱等の副反応と考えられる症状がありましたらお知らせ下さい。局所の腫脹はクリニックでスプレーによる治療をおこなっております。

今年のインフルエンザ対策の目玉はインフルエンザA・Bをそれぞれ一度に診断できるキット(インフルエンザA・Bクイック;デンカ生研)が使用できることです。OCFCでは600人分のキットを用意する予定でいます。このキット使用により適切な抗インフルエンザ剤の使用が可能となることが期待されます。

## 感染症 だより

マイコプラズマ肺炎大流行 2001年の秋はマイコプラズマ肺炎が大流行でした。10月を極期として26人の患者さんが来院されました。マイコプラズマ肺炎は5日以上続く発熱、2~3週続く咳嗽、頭痛、あるいは消化器症状がありますが、その割には比較的元気なのが特徴です。胸部レントゲンでは肺炎像がはっきりあることが多く、血沈の亢進が特徴的です。OCFCでマイコプラズマ肺炎と診断し、入院を依頼したのは5人ですみました。他の方はミノマイシンあるいはマクロライド系の抗生剤で点滴を含む外来治療で回復されています。マイコプラズマ肺炎で白血球数が増加している場合は入院加療が必要となります。また70歳以上の老人では熱が全くなく、ただ元気がないということで来院された方がお2人いらっしゃいました。1人は外来点滴、他の1人は大森日赤内科に入院となりました。

## 院内 機器

新しい検査機器:CRP・ASO測定器(感染症の診断に威力を発揮します)

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)

検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、自動血球分析器、自動検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器

## 猛威をふるった水痘・おたふくかぜ、なぜかいまどき溶連菌とアデノウイルス

この秋もウイルス性疾患は猛威をふるい、水痘は44人、流行性耳下腺炎は21人で保育園・幼稚園を中心に流行しました。ある保育園では同じ日に6人の受診者が出たほどです。麻疹はこの期間3人でした。11月になり夏風邪の代表格であるアデノウイルスによる咽頭結膜炎・ヘルパンギーナが4人来院され、また手足口病も10人に発症しております。現在溶連菌が増加中で18人となっております。

感染性嘔吐下痢症も11月になり急に増加して51人、12月も増加中です。今年の嘔吐下痢症は親子例が多い、小学生が多い等の特徴がありそうです。いずれの方にもフォスミシン等の抗生剤の投与は必要ありません。

### 病診連携

関連病院施設にお願いした患者さんは49名で検査13名、外来20名、入院16名でした。検査紹介では医科歯科大学・日赤医療センターに内視鏡検査、太田総合病院に心雑音の超音波検査、脳波検査、偏頭痛の頭部MRI検査を依頼しました。心雑音の方は心房中隔欠損症でした。東邦大学外科には腹部腫瘍で紹介しております。東京専売病院小児科に高身長と低身長の方の検査をそれぞれ依頼しております。外来は東邦の泌尿器科に成人のおたふくかぜによる睾丸腫大、小児外科に腋窩リンパ節腫大、医科歯科大学にシュグレン症候群の生検依頼、昭和大学整形外科には歩行障害、口腔外科には顎関節症、都立広尾病院循環器科に心疾患の評価等を依頼しました。入院依頼では東邦大学小児科に肺炎、日赤医療センター小児科・内科にそれぞれ肺炎、大森日赤呼吸器科に老人のマイコプラズマ肺炎、小児科に尿路感染症、昭和大学小児科にマイコプラズマ肺炎、内科に咽後膿瘍、日本医大第二病院に1ヶ月児の尿路感染症、荏原病院小児科に肺炎、社保蒲田総合病院にマイコプラズマ肺炎、麻疹、内科には急性咽頭炎患者さんをそれぞれお願い致しました。虎ノ門病院小児科にも肺炎の入院依頼を行ないました。東邦大学小児科、川崎社保病院からは患者紹介がありました。

### 点滴コーナー

点滴治療された方は9月27名、10月44名、11月13名の合計84名でした。9月・10月は喘息発作の方が多く、10月・11月はマイコプラズマ等による肺炎が多くなってきております。そのほか成人では細菌性と考えられる咽頭炎や、尿路感染症、全身型の蕁麻疹(アナフィラキシー反応)、小児では嘔吐下痢症の脱水の治療が増加しております。

## 院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

秋は学会のシーズンでした。9月の小児血液学会、11月の臨床血液学会、12月の小児癌学会に出席し、代診の先生にお任せしました。10月3日には東京医科歯科大学で医学部看護学科の学生に講義、19日には大学院生のクリニック見学・実習がありました。当日受診の患者さんには御協力いただき、ありがとうございました。来年度も同じように実習があります。院長が一部執筆した小児用医薬品集が出版されました。小児科・内科などで小児の診療を行う医師の手助けとなると思います。看護婦さんのための最新医学講座も出版されました。院長の専門である感染を繰り返す子供の見方、考え方を最新の免疫学の考えから解説したものです。医学部の学生向けには既に出版されております。ご自身で読んでみたい方は看護婦までお申し込み下さい。

### 電話予約について

当クリニック(OCFC)では患者さんの待ち時間短縮のため予約制を採用しています。できるだけ電話にて予約を取られるようお願いいたします。空き状況をお聞きの際は、かけなおして予約をお取りください。予約希望時間が詰まっている時は希望時間に近い時間帯をご案内いたします。希望時間が取れない方は直接御来院頂ければ順番にて診療いたします。慢性疾患などで十分な説明をご希望の方は電話で直接お尋ねください。

#### ■ サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	2種混合	22#	おたふくかぜ	27#
内科一般	12#	健康診断	17#	麻疹	23#	日本脳炎	28#
アレルギー/慢性疾患	13#	確認	20#	風疹	24#	その他	29#
隔離感染症	14#	取消	30#	インフルエンザ	25#		
予防接種	15#	3種混合	21#	水痘	26#		

予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤っていけば1#で行って下さい。



**Q** 私の子供は今月で10ヶ月となります。先日3日間39～40℃の発熱があり受診しました。このときは発疹がでて解熱しましたが、子供には解熱剤を使ってもいいのでしょうか。 (38歳やっとなってきた1人娘を育てている主婦)

**A** 小さいお子さんが熱で泣いているとかわいそうですね。すぐに熱を下げてあげたいけれど、最近のテレビや新聞からは熱は下げたはいいけないと言われていたり、どうしてよいかわからなくなりますね。でも簡単です。熱のために苦しそうなら解熱剤を使ってください。元気そうならたとえ40℃あっても使用しなくて良いのです。でもこれだけは忘れないように。“熱は下げても上がります。下がれば上がりません。”よく判りませぬね。もう少し詳しく説明しましょう。

私達は恒温動物ですから、発熱を調整することにより一定の体温を維持しようとする。この調整は脳の中の視床下部周辺でおこなっています。体内に発熱を促すような物質(細菌や白血球・癌細胞からの因子)がここを刺激して発熱します。発熱すると体からアドレナリン等が放出され、血管に直接働きかけて熱の放出を促したり、白血球を増加したりして異物に抵抗して熱を下げようとする。そして発熱を促す物質がなくなると(病気が治ると)熱は自然と下がるように調節される訳です。ですから抗生物質などは直接解熱作用はありませんが、原因を取り除くことにより熱が下がる結果となります。ウイルス感染では自分の力でウイルスを退治して熱がさがります。つまり解熱剤で熱を下げて、原因が残っていれば再度上昇しますが、病気が治って下がれば再び上がることはありません。

お母さんの看護婦日記をつける意味もここにあります。でも熱があつて、呼吸や脈拍が多いと体の負担が増すことがあります。心臓や呼吸器に病気のある方では早めの使用が必要となりますが普段から元気な乳幼児ではほとんどの場合使用しなくても大丈夫です。ただ夜に心配で救急病院を受診しようと思った時、そしてその理由が発熱だけだったなら、ちょっと解熱剤を使って様子をもててもいいでしょう。受診するより自宅での安静のほうが大切なときもあります。

一般的に解熱剤の使用の目安は38.5℃以上で苦しうなとき、使用する解熱剤はアセトアミノフェン(カロナール、アルピーニ、アンヒバ等)が安全です。20kgを超えていけばイブプロフェン(ブルフェン)も安全です。ポンタールや小児用PL顆粒は小児には使いません。解熱剤をもらうときに確認すると良いでしょう。(OCFC 院長)

## 診療時間

曜日	8:30～12:00	14:00～16:00	16:00～18:00
月	一般(小・内)	一般(小・内)	一般(小・内)
火	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
水	代診(小児科)	一般(小・内)	一般(小・内)
木	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
金	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
土	一般(小・内)	13:00～14:00 乳健・予接、14:00～15:00 一般(小・内) 栄養相談 13:00～15:00 30分ずつ(乳幼児、生活習慣病)	

乳健：乳児健診、予接：予防接種、ア：アレルギー疾患 慢：慢性疾患

栄養相談の予約：代表電話で直接予約下さい。

大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00～4:00にお越しください。検査希望の方は代表電話にて直接予約してください。

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー(OCFC)会

# OCFC Okawa Children & Family Clinic 大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間：月～金 午前 8:30～12:00 午後 2:00～6:00

土 午前 8:30～12:00 午後 1:00～3:00

(日曜・祝日休診) 駐車場五台あり

予約専用

**03-3758-0099**

代表番号

**03-3758-0920**

E-mail: ocfc@jeans.ocn.ne.jp

## 案内図



東急多摩川線矢口渡駅前